

2014年度 多摩美術大学芸術学科 公募制推薦入試 参考作品
提出課題：「空想の」のプロデューサーとして自由にプランを企画してください。

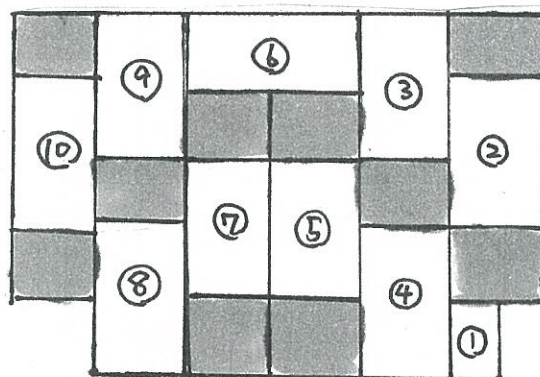
空想の〇〇〇
あなたの見える世界展

意図

誰かの見ている世界を見てみたいと思ったことはありませんか。
生き物によって見える世界には違いがあります。
私たちの見ている世界には様々な色が溢れていますが、色を感じない生き物もいます。どちらが正しいという話ではありませんが、何故私たちは色を感じるのでしょうか。
私たちが色を見るのは『太陽光などの光の波長が物質にあたり吸収されずにはね返った波長を脳が色と認識する』という仕組みによってです。
見える色となる波長を一般的に『可視光線』と言い、長さは約400~700nmと言われていますが、これはあくまで人間が見ることのできる範囲であり、他の動物も同じとは限りません。
色を認知する為の視物質（網膜に存在する錐体細胞の表面にある物質）は生き物によって種類や個数が異なる上、明暗を感じる桿体細胞（錐体細胞と同様に網膜に存在する細胞）を持っている生物と持っていない生物がいるからです。
この様な理由から生き物の見る世界には違いがあります。色が感じない生き物だけでなく、私たち人間よりも少ない色を認識している生き物や、多くの色を見ている生き物もいます。これは生物の種族間だけでなく人間同士でもありえることです。
彼等の見る世界を覗いて見たくはありませんか。
この企画は生物の持つ感覚機能の代表格・五感の中の一つ『視覚』の『色覚』についてスポットを当てたものです。
この企画により多くの子どもたちが色覚や視覚に関して、色盲に関して少しでも興味と理解を持つことができれば幸いです。

内容

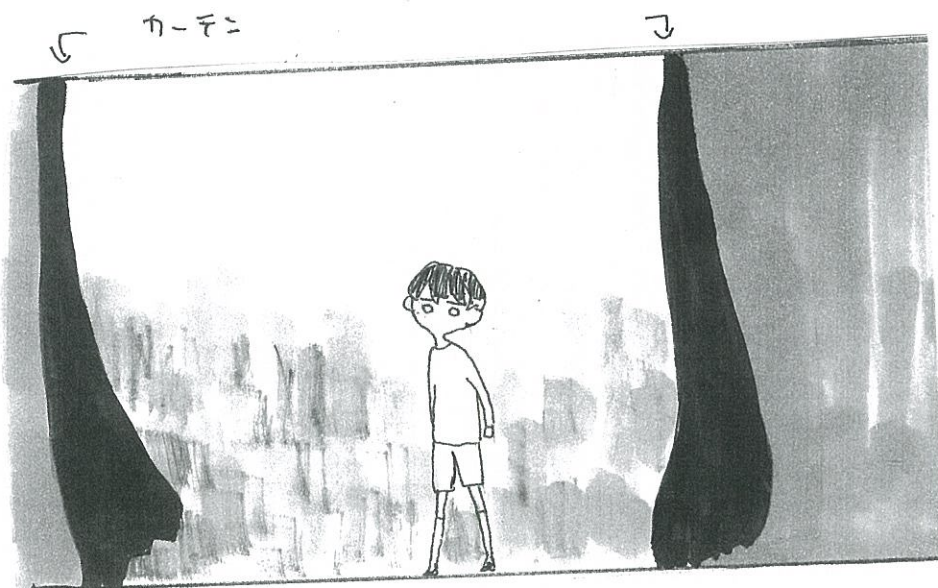
目の愛護デー（10月10日）があることから一般的に『目の愛護月間』と呼ばれている10月に開催をしたいと思っています。ショッピングモールの催し物会場等、美術館や博物館ではなく親子で気軽に行きやすい場所で行い、展示方法は黒い世界から始まり同じ場所の景色を1色、2色と色を増やして行き一本道を歩いて行く形です。



■ ... 説明をしている場所

展示場を上から見た図

色覚ごとにカーテンで仕切り、「今の世界は一般的にどの動物が見ている世界か」ということを簡潔に明記し、どのような仕組みになっているのかという説明も入れていきます。



距離は3m程度。



左右は2m前後。

① 0色 (黒)

何も見えない
 暗い道。



この部屋だけ距離が2m、幅が1mで、壁に触れながら進む。



② 1色 (白)

光が入、にモノクロの道。

ニワトリ等が見える世界。



③ 2色 (黄と緑)

淡く色の存在する道。

ウシやウマ等の草食動物が見える世界。



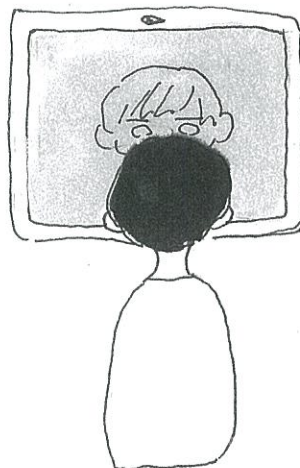
④ 2色 (緑と青)

茶色が多き道。

犬や猫等の哺乳類が見える世界。

※ 説明の場合は インカメラはモニタースクリーンを設置。

映像はインカメラが映しているものをそのまま映像を扱いたし。



あなたは
 ノックから
 こう見えます



⑤ 3色

一般的に道。

霊長類、ミドリガキ等が見ている世界。



⑥ 4色

紫外線まで見え道。

両生類、爬虫類、鳥類が見ている世界。



⑦ 5色

昆虫が見ている世界。



⑧ 8色

ゼブラフィッシュが見ている世界。



⑨ 16色

シロコが見ている世界。



⑩ 20色

ハトが見ている世界。

展示場の外には

目の仕組みについての解説パネル（模型なども）

目に関する本

動物図鑑

などを用意し、気になったことを簡単に調べられる場所を提供するとより興味が深まるのではと思います。



視力検査場や色覚検査場も設置します。